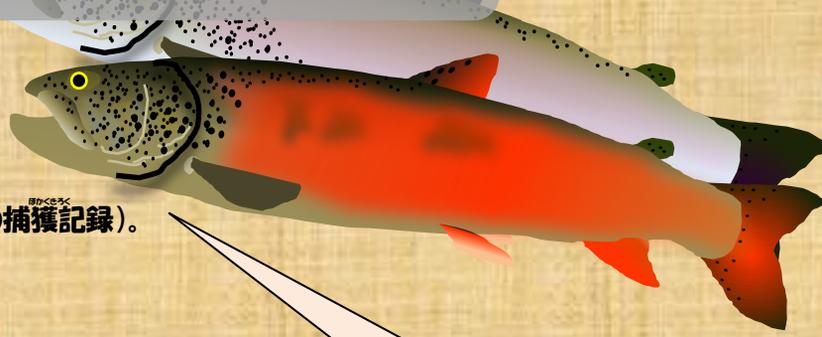


イトウのはなし



<イトウは...>

- サケ科イトウ属に分類されるサケの仲間。
- 国内最大級の淡水魚(南富良野では127cmの捕獲記録)。
- 環境省で絶滅危惧種 I Bに指定されている。
- 長寿命の魚で、15年以上生きるものもいる。
- 生涯で数回の産卵をする(サケは1回産卵)。

下流から上流まで自由に
行き来できることが大事!

イトウのあれこれ



イトウのオスは産卵期に濃い
婚色が出る
※婚色は、産卵期に体色が変化する



イトウの産卵はオス・メス1対1の
ペアで行われる



イトウの卵は直径5~7mm
の大きさ(産卵後30日目の
受精卵)



産卵後約40日で孵化したイトウの
稚魚
まだ腹に栄養をたくわえている



土砂の影響で窒息死した
イトウの卵(白玉状のもの)



イトウの年齢はウロコで
わかる(4歳)



産卵後約60日で泳ぎだした稚魚
(体長約3cm)



越冬に備えて落ち葉
に身を隠す稚魚(体長
約5cm)

どこにいるか
わかるかな?



<成魚>

イトウは生まれた川へ戻って産卵する(特にメス)。オスは4~6歳、メスは6~8歳になると成熟する。産卵期は5月~6月(南富良野の場合)。産卵はメスが尾ビシで川底に穴を掘って卵を産む。体長25cm以上は主に魚を食べる 時にカエルやネズミも食べる。

南富良野の森の動物たち

奥落合で見つけたヒクマ
時速50km/hで暴走中



落合で見つけた
コテンクゴウモ!



金山で見つけた
キタキツネの親子



落合で見つけた
クマガリノ食痕



落合で見つけた
スズメバチの巣



落合で見つけた
フキを食ったクマのフン



<稚魚>

イトウの稚魚は小水路や本流沿いの分流などで生息・越冬する。流れが緩やかな場所で、落ち葉や倒木、植物の影に身を隠して生活している。体長25cm前後までは川に棲む水生昆虫を食べて成長する。

南富良野ではかなやま湖が海(下流域)の代わり

イトウと暮らす町 南ふら. では「南富良野町イトウ保護管理条例」によりイトウを保護しています。ご理解とご協力をお願いします。

(町の写真や動画を募集し、Facebookによる情報発信を行っています。詳しくは町のHPをご覧ください。)

【お問い合わせ】

南富良野町役場 企画課

TEL: 0167-52-2115

URL: <http://town.minamifurano.hokkaido.jp/>



<基礎情報>

- サケ目サケ科イトウ属に分類されるサケの仲間。
- 国内最大級の淡水魚(過去に道内の川で210cmの捕獲記録)。
- 現在は環境省レッドリストで絶滅危惧種 I B類に指定されている。
- 寿命は15~20歳以上生きる。
- 多数回繁殖魚(シロザケとは違い、一生のうちに数回の産卵を繰り返す)。



※南富良野では過去に127cmの捕獲記録があります。

<生態>

- イトウは他のサケ科魚類のように海へ下るものもいる。
- 南富良野のイトウ繁殖期は5月上旬~6月上旬。
- 産卵は生まれた川へ戻って行く(100%ではない)。
- 成熟年齢はメスが6~8歳、オスが4~6歳。
- 産卵はメスが川底にすり鉢状の穴を掘って行き、生み終わると砂利で卵を埋める。
- メスは腹の中に3000~10000粒の卵を持っている(メスの体長によって卵の数は違う)。
- メスは卵を平均5か所に産み分ける。
- 産卵を終えた個体は殆どの場合死ぬことなく、再び川の下流域へと戻っていく。
- 産卵から約2か月後、川を泳ぎ出して間もない稚魚は、泳ぐ力が弱いため、流が緩やかな場所で、外敵から身を守ることができる落ち葉や倒木、植物などの影に隠れる。
- 0歳の稚魚が生息する場所は産卵場所とは違う小水路や氾濫原、本流沿いの分流に入り込んで生息・越冬する。
- 食性は体長20cm前後までは主に水生昆虫を食べるが、それ以降は主に魚を食べようになる。時にネズミやヘビ、カエルなどの小動物も食べる。
- 体長30cm以降は川の中での外敵は殆どおらず、河川生態系の頂点に位置する川の王者となる。



イトウの産卵編

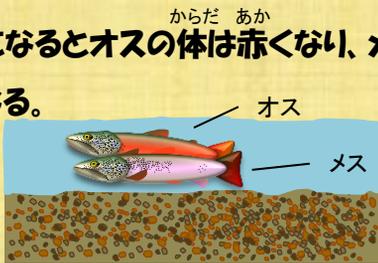
メス

1. 春(4月なかば)になると大人のイトウは産卵のために川の
上流をめざして川をさかのぼる。

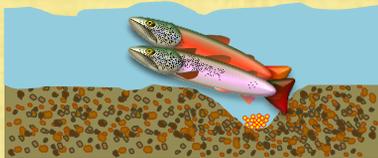
※どちらかというとおスの方が先にのぼってメスを待つ。

2. 5月、産卵するための場所に着くとオスとメスが1対1
のペアになる。

産卵する時期になるとオスの体は赤くなく、メスはうす
いピンク色になる。



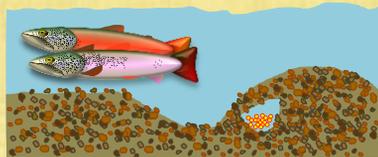
3. 卵を産むために、メスが尾ビレを使って川底に穴をほる。
オスはこの間、他のオスを追い払ったり、卵を食べにくる
小魚を追いかたりする。



4. 卵を産むための穴が掘れると、メスが卵を産み、
オスが卵に精子をかける。⇒受精



5. メスが卵を産み、オスが卵に精子をかけ終わると、メス
が尾ビレを使って砂利を卵にかぶせて埋める。



6. 全ての産卵が終わると、川の下流域やかなやま湖
へ下る。(シロザケとはちがい、イトウは一生のうち
何回も産卵する)

南富良野ではかなやま湖が海(下流域)の代わり





イトウの稚魚編

1. 卵は、受精後約30日で卵からかえる(孵化)。
 孵化したイトウの子供(仔魚)はまだ川底の砂利の中にある。

受精から約20日の卵 (卵の大きさは5~6.5mm)



受精から約30日の仔魚

2. 孵化したイトウの子供は、さらに約30日すると川を泳ぎだす(受精から約60日後 7月下旬から8月上旬)。



泳ぎだして間もないイトウの稚魚

3. 川を泳ぎだした稚魚は、その後約1ヶ月の間にほとんどの個体が、生まれた川からいなくなる。

4. 9~10月、産まれた川から本流へ出た稚魚は岸近くを泳ぎながら、冬を越すための場所をさがす。



小さな水路をさがすのは大変

5. 10~11月になると、冬を越すために、流れがゆるやかな小さな水路に入り込んで生活する。

6. 小さな水路に入り込んだ稚魚は、翌年の春まで川の中に落ちた枯れ葉の隙間にもぐり込んでほとんど動かないで冬を越す。



落ち葉がイトウのふとん



南富良野ではかなやま湖が海(下流域)の代わり

イトウの写真編



さんらんき がつ ひだり みぎ
産卵期 5月～6月(左オス 右メス)



たまご め
卵に目ができる(6月～7月)



ふか ちゅうじゅん じょうじゅん
卵から孵化する(6月中旬～7月上旬)



かわ およ
川を泳ぎだす(7月中旬～8月上旬)



ちい すいろ せいかつ よくとし はる
小さな水路で生活する(10月～翌年の春)

